

<学校生活全体より>

若桜学園の子どもの伸ばしたい力は、①人間関係作り ②学力定着・学習意欲の形成 ③将来に向けた意思形成である。こども園時代から固定化しがちな人間関係でクラス替えもないため、9年間同じ人間関係の中で過ごすことは、変化が十分ではないと感じられる保護者の方の心配もある。少人数のメリット、デメリットを踏まえて、自分の良さを生かして課題解決をしていく力をつけることが望まれる。そのために、地域に目を向けて多くの方と関わりながら課題に気づき、解決方法を探り、考え、地域へ発信する機会を設定してきている。現7年生の階段アートは、昨年度6年生の時に子どもシンポジウムで発信したことがきっかけで予算化され、実現した。現9年生も昨年度8年生の時の「若桜まちおこしプロジェクト」をもとに課題を見出して4つのグループができ、課題解決に向けて新しい提案がされた。現高1が取り組んだ「御城印」の流れが受け継がれた取組にもなった。ふるさとキャリア教育CMコンテストへの取組にも発展し、CM賞、奨励賞を受賞し、生徒の自信につながった。

このように、町づくりに関わることで、将来、子どもたちが何らかの形で町に関わり、誇りを持ち、居場所となるようにと考える。今年度は町の企画で高校生のボランティアの取組にも発展したことは、児童生徒の良い刺激となり、とても良いことだと考える。

<児童生徒アンケートより>

○良かった点

肯定的回答が9割を超える良かった点としては、
 あいさつを自分からできている (90%)
 返事・場に応じた言葉遣いができている (95%)
 聞く人に分かるようにはっきり話している (93%)
 授業中友だちや先生の話をしっかり聞いている (97%)
 先生はがんばりを認めてくれる (93%)
 先生は困ったことに相談にのってくれる (94%)
 先生はよく分かるように教えてくれる (99%)
 学習したことがよく分かる (96%)
 学校の決まりや約束を守っている (98%)
 委員会・係の仕事を熱心にする (95%)
 仲のいい友だちがいる (97%)
 他学年と遊んだり話したりしている (91%)
 困っている友だちを助けている (98%)
 周りの人とつながり、高め合おうとしている (94%)
 部活動に積極的に取り組んでいる (100%)

○改善点

肯定的回答の割合が8割を下回り、課題となる項目は、
 黙掃 (69%)
 授業中の挙手 (73%)
 早寝・早起き (73%)
 読書 (71%)
 家庭内での学校についての会話 (76%)
 中でも家庭内での学校についての会話 (76%) は、昨年度結果の (84%) を大きく下回り、気になる課題である。

<保護者アンケート結果より>

○良かった点

保護者アンケートで肯定的回答が9割を超える良かった点としては、次の項目だった。

子どもは学校行事に楽しんで積極的に参加している（95%）
子どもの服装・身だしなみが整っている（90%）
子どもは社会のルールを守っている（92%）
子どもの部活動への積極的参加（91%）
自分は学校からの文書など必ず読んでいる（94%）
自分は参観日・懇談へ参加している（99%）
PTA 活動へ積極的に参加している（99%）

○改善点

一方で肯定的回答が 7 割を下回る課題は、以下の項目だった。

人権教育への取組（69%）
児童についての適切な相談対応（67%）
いじめの早期発見・対応（36%）
子どもは授業が分かりやすいと言う（62%）
子どもの家庭学習習慣の定着（63%）
子どもの言葉遣いがよい（55%）
ハッピーすこやか週間への家庭協力（64%）

「いじめの早期発見・対応（36%）」の 45%は「E:分からない」という回答であった。実態が分からないため、肯定的回答が少なくなっていると思われる。個別に連携・共有する必要のあるケースは情報共有を行っているが、懇談会などの全体の場でも現状を適切に伝えたり教育相談について発信したりする必要があると感じた。また、ハッピーすこやか週間への家庭協力（64%）は、昨年度は 72%で、大きく下回った。今年度は、朝ご飯 4 品目に挑戦する取組をめざして働きかけたが、3 週間の継続は難しい面があったと推測される。3 品目はほとんどの家庭ができていた。こども園と連携し、継続的に取り組むことが大切と感じる。家庭学習の習慣、言葉遣いの項目は、児童生徒と保護者の回答結果に大きく乖離があった。子どもはできていると思っているが、保護者側としては、まだまだ不十分という思いだろう。児童生徒アンケートで家庭内での学校についての会話（76%）という結果からも、家庭で学校生活について話題にしてもらう機会が少なくなっているようなので、学園のホームページなども話題にしながら家族で話をしてもえたらと思う。

<生活習慣について>

- ・高校生になっても、受験が近づくにつれて 11 時くらいには寝るようにと指導されている。親が言うよりも先生からの声かけは効果が大きい。
- ・生活習慣に大きく影響しているメディアの利用については、保護者への働きかけがいる。
- ・言葉遣いについては、仲がいいのは良いことだが、昔に比べると子ども同士のやりとりが乱暴に感じることがある。上級生が下級生に言葉遣いについて声をかけている。少人数で近い関係性では、馴れ合いになってしまう面もあると考えられる。

<少人数のよさ>

- ・スポーツ・文化面では、小規模だからこそ、一人ひとりに行き届く指導が可能になる。
- ・一人が何役も受け持つ機会があり、活躍の場となる。人前で話すことが苦手な児童生徒は、校内では見られない。少人数ゆえにやらなくてはならない環境。
- ・新聞などで児童生徒の活躍を見るのは、非常に嬉しい。
- ・取材される記者の方に自分の思いを話すことができているが、友だちに対しては遠慮して違う意見を出すことをしない子どももいる。みんなの和を大事にするあまり、遠慮する点が課題。

<家庭学習について>

- ・子どもは家庭で学習をしているつもりでも、保護者から見ると取り組み方や内容が十分ではない等、学習に取り組んでいるように感じられない面があるので

	はないか。 ・やり方がわかると、取り組みやすい。以前、自学の内容や時間などの目安を学園から提示してもらっていた。時間だけでなく内容も大事である。 ・自学ノート展示を年に２回、期末懇談の時期に合わせて行い、児童生徒や保護者のみなさんに見ていただく機会とし、参考にしてもらうようにしている。 ・雪遊び宿泊体験の時に、日記を持ってきた子どももいて、やる気や意欲がある子どもたちがいることを実感した。中には、パソコンを使い、ワードで日記を打っていた子どももいて、おもしろいと思った。 ・コロナ禍でG I G Aスクール構想が加速化し、端末活用が一気に進んだ。調べ物も、書籍などの資料よりパソコンで検索する子どもが多い。パワーポイントの活用で資料もうまく作る子どももいて、大きく変わったと感じる。 ＜家庭における学校に関する話題について＞ ・家庭で会話はするが、取り立てて学校のことを話すことは少ないのかも知れない。兄弟姉妹の間では、話していることもあるようだ。 ・学校のホームページに給食も子どもの様子も載せているので、何でもいいので話題にしてもらいたい。
その他の意見・学校への要望等	・子どもたちが、少人数の中でよく頑張っている。階段アートも見に行きたい。一人が何役も受け持ち、いろいろな力をつけている。 ・高校に進学すると、大人数のため出番がなくて、学園の時のような感じで取り組もうとすると、びっくりするのではないかな。 ・高校生になっても、高校で新たにできた市内の友達とも、学園時代からの友達とも上手につきあっている。どこでも、誰とでも上手に関わり、付き合っていく力をつけてもらっていると感じる。